

file the Articles of Incorporation, but that court refused and petitioners bring the case here by writ of certiorari.

Upon the authority of *Takao Ozawa v. The United States, supra*, we must hold that the petitioners were not eligible to naturalization, and as this ineligible appeared upon the face of the judgment of the Superior Court, admitting petitioners to citizenship, that court was without jurisdiction and its judgment was void. *In re Gee Hop*, 71 Fed. Rep. 274; *In re Yamashita*, 30 Wash. 234.

The judgment of the Supreme Court of the State of Washington is therefore

Affirmed.

A true copy.

Test:

Clerk, Supreme Court, U. S.

11回 十一月二十八日 内田外務大臣宛
在桑港矢田總領事宛
佐藤市造戰時帰化訴訟事件ノ現況取調方訓令

ノ件

通移機密第11五号

佐藤市造戰時帰化訴訟事件ニ関スル件

○○号及同年十一月二一日附公第四1111号ヲ以テ加州大審院
ニ於テ無期延期トナリタル趣御報告ノ次第有之候處該事件
ハ今尚同院ニ繫屬中ナリヤ其後ノ成行一応御取調ノ上可成
速ニ御回報相成度此段申進候也

註1 米國ニ於ケル土地法訴訟関係一件(事項三)ノ五月二一日
在桑港矢田總領事発内田外務大臣宛電報第九四号ノ附記
文書ノ末尾参照

2

十一月二一日附公第四三三三号ヘ佐藤戰時帰化権事件ブリー
及矢野後見人訴訟事件ブリーフヲ内田外務大臣ヘ送附
ヤル公信ナリ

事項三 米國ニ於ケル土地法問題関係一件

11回 一月十九日 在桑港矢田總領事ヨラ
内田外務大臣宛(電報)

收穫契約試訴ニ於ケル原告勝訴ノ判決ニ対ハ

檢事総長ガ大審院ニ上告準備中ノ由報告ノ件
第一五号 (註) (一月二十一日接受)

客年往電第四二六号ニ關シ
檢事総長「ウヨ・ア」ハ收穫契約試訴事件ヲ合衆国大審院ニ
上告スル積リニテ且下準備中ナル旨「ヨリオ・ア」ニ洩ラセ
ル由

在米大使ヘ電報シ在「ロス・アンゼルス」領事ヘ郵送セリ
註 日本外交文書大正十年第一冊上巻一〇五文書

11回 一月二十一日 在桑港矢田總領事ヨラ
内田外務大臣宛(電報)

收穫契約試訴判決ニ対ハ檢事総長大審院ニ

第111号 (一月二十一日接受)
往電第一五号ニ關シ檢事総長「ウヨ・ア」ハ收穫契約試訴
件ニ於ケル土地法問題関係一件 11回 11回 117

判決ニ対シ一月二十一日合衆国大審院ニ上告セル由
在米大使及「ロス・アンゼルス」ヘ電報セリ

11回 一月二十一日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛

加州外人土地法試訴上告裁判ニ対スル加州日

本人会ノ方針決定ノ件

公第二四号 附屬書 南加中央日本人会ヨリ大山領事ヘ届出ノ右決定
(二月二十七日接受)

大正十一年一月二十一日

在ロス・アンゼルス

領事 大山 卵次郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

加州外人土地法試訴事件上告ニ關シ今般当地ニ於テ加州南北
中央日本人会聯合協議会ヲ開催シ其ノ裁判弁護方法其他ニ
關シ別紙ノ通協議決定致候事当地南加中央日本人会ニ
リ届出候間此段及御報告候 敬具

11回 一月二十一日
米國ニ於ケル土地法問題関係一件 11回 11回 117

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 二七

本信写送付先 在米大使桑港總領事

(附屬書)
(別紙)

加州外人土地法試訴上告裁判ニ対スル加州日本人会ノ方針決
定ニ関シ大山領事ヘノ届出

土地法試訴関係委員南北聯合協定委員会

出席者

北部側 大沢栄三 佐藤信忠 滝本為三

南部側 茅野恒司 水野芳太郎 坂本久太

藤岡柴朗 藤岡次郎 平井由太郎

湯浅銀之助 吉永善次 中村正敏

吉川豊松 中村万吉

議事

一、三若氏ヲ出席セシムル件可決 (本人ハ桑港有志者ニシテ出

席シタルモノナリ)

二、土地法全部試訴ノ大審院弁護士決定ノ件マーシャル氏

ニ依頼スル事可決

但シ弁護料ハ敗訴ノ場合ハ壹万弗勝訴ノ場合ハ貳万五千

弗トス以上壹万弗ノ内ニハ「リース」権収穫契約後見人

株式会社ノ件ヲモ含ム然レ共右四件ヲ同時ニ行ハサル時
ト雖モ同額ヲ以テ取扱フ様交渉シ若シ不調ノ場合ハ別々
協定スル事
右ノ交渉方ハ在米日会土地法関係委員会ニ於テ取扱フ事
以テ打切ル事ヲ交渉スル事

三、歩合耕作上告ノ場合ニ其ノ「ケース」ヲモ「マーシャ
ル」氏ニ取扱ヲ依頼スルコト

四、株式試訴ハ速カニ起ス事

五、土地所有試訴ノ提起ノ時機ニ就テハ一時保留スル事
六、「リース」権上告ノ手続ハ「チャビン」氏ニ歩合耕作
上告ノ手続ハ「エリオット」氏ニ依頼スル事

但シ「チャビン」氏ニ於テ都合上「エリオット」氏ノ方便宜
ナルヲ申出セシ場合ハ「エリオット」氏ニ依頼スル事

七、華州土地法関係委員会ト聯絡ヲ取リ同試訴ヲ加州土地
法試訴ノ後ニ上告スル様取計フ事

八、後見人ノ件ハ矢野事件ノ決定ヲ待ツテ提起スル事
右満場一致ヲ以テ可決ス

大正十一年一月十八日

在米日会土地法関係委員会代表 大沢 栄三

佐藤 信忠

滝本 為三

南加中央日会土地法試訴実行委員

会代表 茅野 恒司

二八 三月二十一日 (在シアトル斎藤領事ヨリ
内田外務大臣宛)

華盛頓州排外土地法中ノ信託譲渡契約ノ効力

二闇スル件

機密公第一〇号

(四月十八日接受)

大正十一年三月二十一日

在シアトル

領事 斎藤 博 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

華盛頓州キング郡シアトル市在住米国市民 J.D.O'Connell 及 Pierce Lonergan ハ信託譲渡契約 (Declaration Trust) ニヨリ英領加奈陀人 (E.J.O'Connell) 所有セル当市所在ノ一定ノ土地ノ信託譲渡ヲ受ケタル処華盛頓州キング郡検事ハ右信託ニヨリ E.J.O'Connell ノ為ニ保有セラ

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 二八

ルル前記土地ニ関スル利益ハ當州憲法及千九百二十一年排外土地法ニ背反スルモノニシテ之ハ沒收セラレ華盛頓州ノ財產トナルベキモノナリトシテ「キング」郡上等裁判所ニ告発シタルヲ以テ前記契約当事者三名ハ当事者ノ一人タル弁護士 Pierce Lonergan ハ代理人トシテ第一ニ右告発ニ掲ゲラル財產 (Property) ハ土地ニモ非ズ又ハ其ノ利益ニモ非ズ第二ニ排外土地法第一条(b)項ハ非立憲ニシテ且イ)合衆國憲法改正第十四条(c)合衆國憲法第六条(d)華盛頓州憲法第二条第三十三項及(2)千九百年八月締結ノ英米條約第二条ニ抵触スルモノナリトノ論拠ノ下ニ抗告ニ及ビタル處三月十日キング郡上等裁判所判事 Mitchel Gilliam ハ右原告ノ主張ハ充分ノ理由ナントシテ右抗告ノ有効ヲ認メタル決定ヲナセリ從テ右土地ハ當州排外土地法第二条ノ下ニ没収ニ附セラルコトナキコトナリ

右決定ハ同判事ニ於テ何等理由ヲ公表セサルヲ以テ明確ニ非ザレトモ大体外国人ガ其所有セル土地ヲ州ガ没収訴訟ヲ提起スルニ先チ米国市民ニ譲渡シタルトキハ州ハ之ヲ法律違反トシテ没収シ得ザルハ勿論本件ノ場合ノ如キ外国人ガ其所有土地ノ没収セラレソコトヲ恐レ一定ノ価格ヲ以テ米

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 二九 三〇

五一

國市民ニ譲渡シ其対価ハ土地ヲ売却シタルトキニ売渡人ニ支払フノ形式即チ信託譲渡ノ契約ニヨルトキハ其土地所有權ハ米國市民ニ完全ニ移転シ何人モ之ヲ奪フ能ハズ同時ニ其外国人ハ同時ニ信託ノ譲渡契約ニ定メタル一定ノ金額ニ對シテノミ之ヲ回収スルノ先取特權ヲ有スルモノニシテ其ノ外国人ノ嘗テ有セル土地ニ對スル権利ハ不動産上ノ所有權トシテ残ルモノニ非ズ單ニ衡平法上 Personal Property ト見做サルベキモノナリトノ見解ニアリタルモノナルガ如シ右決定ハ今後高等裁判所ニヨリテ反対ノ決定ナキ限り実際上排外的土地位ヲ無効ニ帰セシムルモノトシテ沿岸各州ニ於ケル重大問題トシテ注目セラル右ニ閑シ当事者タル弁護士 Pierce Lonergan ニ就キ確メタル所ニ依レバ右決定ハ衡平法上当然ノ解釈ニシテ「キング」郡検事ハ當州大審院ニ上訴シタルヲ以テ未ダ確定セルモノト見ルヲ得ズ但シ万一沿岸排日的政治家ノ運動ニヨリ當州大審院ニ於テ之ヲ覆サルコトアリトスルモ合衆國大審院ニ上訴ノ上ハ必ず右決定ヲ確認セラルコトトナルベク右解決ニ就テハ既ニ一千九百十八年合衆國大審院判決例 Craig versus Leslie 事件ノ存スルアリ一点ノ疑ヲ存スペキ余地ナシト尚同弁護

士ハ當州大審院ノ判決アル迄ハ關係書類其他ノ發表ヲ差控へ度キ旨陳述シタリ
右御参考迄ニ報告申進候 敬具
本信写 在米大使 沿岸各領事

二九 四月二十七日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
大審院ニ上告ノ借地及收穫兩契約事件ノ弁論
十一月十三日開始二付報告ノ件

第九二一號 (四月二十九日接受)
往電第二一號ニ閑シ

借地及收穫兩契約事件共ニ来ル十一月十三日合衆國大審院ニ於テ弁論開始ノ趣閑係弁護士ヨリ當地在米日会ヘ通知アリタリ

在米大使「ロス・アンゼルス」ヘ郵送セリ

三〇 五月二日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
加州大審院ニ上告ノ矢野速雄後見人訴訟ハ矢野勝訴ノ判決アリタル件

附記 大正十年十一月十九日在桑港矢田總領事宛内田外務大臣宛電報第四〇〇号

矢野速雄後見人訴訟上告ノ判決延期ノ件

第九四號

(五月四日接受)

客年往電第四〇〇號ニ閑シ

五月一日加州大審院ニ於テ矢野速雄ニ対シ勝訴ノ判決アリタル處當地諸新聞ハ之ヲ以テ千九百二十年新土地法中後見ニ閑スル規定ヲ無効ナラシムルモノナリト論評シ又州知事檢事総長及排並協会会頭等之ニ対シ更ニ嚴重ナル排日手段ヲ執ラザルカラザル旨論ジ居ルモ本日入手シタル判決文ニ拠レバ右ノ点ニ閑シ尚疑アルヲ以テ目下研究中ナリ

右不取敢

在米大使及在羅府領事ヘ電報セリ

註 左掲ノ附記參看

(附記)

大正十年十一月十九日在桑港矢田總領事宛内田外務大臣宛電報第四〇〇号

矢野速雄後見人訴訟上告ノ判決延期ノ件

第四〇〇號

加州「メリスビル」居住矢野速雄加州上級裁判所ニ於テ客年十月六日其米國出生兒ノ名義ニテ購入シタル土地ニ對スル

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 三〇

五三

三一 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 三一

五四

兩事件ニ関スル「ブリフ」郵送ス
米「ロス・アンゼルス」へ郵送セリ

三一 五月六日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

矢野速雄後見人訴訟事件ノ加州大審院判決文

要旨報告ノ件

第九八号 （五月七日接受）

往電第九四号ニ關シ矢野事件ニ対スル加州大審院判決文要
点左ノ通

「サタ一」郡上級裁判所ノ矢野速雄後見職認許申請ニ対ス
ル否認判決ハ之ヲ破棄ス

本件上告ニ際シ原告ヨリ提起シタル後見職就任否認ニ關ス
ル一九二〇年新土地法ノ規定ヲ以テ（一）日米通商条約（二）合衆
国憲法修正第十四条及（三）加州憲法第一条第二十一項ニ違反
ストナス点ニ対スル本大審院ノ解釈左ノ通

（一）後見人タルコトハ身分ニ屬スルモノニシテ日米通商条約
ニ保障スル権利特權中ニ包含スヘキモノニ非サルヲ以テ之
カ許否ニ關スル問題ハ国内法上ノ問題ナリ
(二)米国市民タル未成年者ノ父母ハ無能力者ニ非サル限り其

ノ子ノ後見人タルコトヲ得ルヲ以テ特殊ノ人民ニ對シテノ
ミ之ヲ否認スル前記新土地法ノ規定ハ勝手ニ差別的待遇ヲ
設ケタルモノニシテ合衆国憲法修正第十四条法律上平等保
護ノ規定ニ違反ス
(三)米国市民ハ人種ノ如何ニ依リ其ノ特權ヲ否認サルヘキモ
ノニアラサルヲ以テ日系米人ニ對シテノミ其ノ父母ヲ後見
人トシテ有スル特權ヲ否認スル前記新土地法ノ規定ハ合衆
国憲法修正第十四条及加州憲法第一条第二十一項ニ抵触ス
云々
尚弁護士「エリオット」ノ研究ニ依レハ右判決ノ結果次ノ
二原則明確ニ決定セラル
(一)未成年者ノ父タル日本人ハ無能力者ニ非サル限り加州法
律ノ規定ニ從ヒ其ノ子（加州出生タルト否トニ拘ラス）ノ
身分及財産ニ付後見人タルコトヲ得
(二)米国出生日本人ノ未成年者ニシテ其ノ父ガ無能力者ナラ
サル限り之ヲ後見人ニ任セシムル権利ヲ享有ス
又右判決ノ結果一九一三年及一九二〇年ノ土地法中ノ他ノ
諸規定ニ付テモ其ノ根拠ヲ後見ノ場合ト同様ノ差別的待遇
ニ置クモノハ憲法違反ナルコトヲ明白ニセリ云々

判決文及右弁護士意見書郵送ス

在米大使ヘ電報シ在「ロス・アンゼルス」領事ヘ郵送セリ

三二 五月九日 在桑港矢田總領事宛（電報）

矢野速雄後見人訴訟事件ノ加州大審院判決ニ
関スルエリオット弁護士ノ意見ニ付問合ノ件

第四三号

貴電第九十八号末段「エリオット」ノ意見中「右判決ノ結
果一九一三年及一九二〇年ノ土地法中ノ他ノ諸規定ニ付テ
モ其ノ根拠ヲ後見ノ場合ト同様ノ差別的待遇ニ置クモノハ
憲法違反ナリ」トハ之レヲ具体的ニ言ヘハ前記法律ノ何レ
ノ規定ヲ指示スルモノナリヤ尚本件裁判ハ右判決ニテ確定
シタル次第ナリヤ御回電アリタシ

三四 五月二十三日 内田外務大臣ヨリ
在桑港矢田總領事（電報）

日本人某ノ人身保護命令請願書ニ關スル新聞
報道ニ付問合ノ件

第四七号

國際通信十六日桑港発電トシテ新聞紙ノ伝フル所ニヨレハ
「カリフォルニア」州最高法院ハ千九百二十年ノ土地法ノ
罰則ハ憲法上合法ノモノナリトノ判決ヲ与ヘ日本人「アカ
ドウ」某ノ人身保護命令ノ請願書ヲ却下シタル由ノ処右ハ
如何ナル事件ナリヤ大要電報アレ

件
（五月十二日接受）

三一 五月六日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

矢野速雄後見人訴訟事件ノ加州大審院判決ニ
關スルエリオット弁護士ノ意見ノ意味回電ノ

第一〇二号

三五 五月二十三日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛

五五

矢野速雄後見事件ニ涉及ノ上級裁判所ノ矢野

勝訴判決ノ件

公第1八七号

大正十一年五月二十一日

在桑港 総領事 矢田七太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

郡上級裁判所ニ於ケル矢野事件判決ニ関スル件

矢野速雄後見事件ニ対シ五月一日加州大審院ニ於テ我方ニ
勝訴ノ判決アリタル結果同十八日シテ郡上級裁判所ニ
於テ本件闘聯ノ競争事件ニ対シ別紙判決文ノ如ク我方勝訴
ノ判決有之候ニ付此段報告申進候 敬具

本信写送附先 在米大使羅府領事
(別紙)

シテ一レ郡上級裁判所ノ判決文

IN THE SUPERIOR COURT OF THE STATE
OF CALIFORNIA, IN AND FOR THE CITY
AND COUNTY OF SAN FRANCISCO.

STATE OF CALIFORNIA,

vs.

HAYAO YANO AND TETSUBUMI YANO.

the Defendant Tetsubumi Yano. According to the decision of the Supreme Court, the child being an American citizen, is entitled to hold real estate in her own name, no trust could possibly exist in favor of her father Hayao Yano, she having a right to own this property, no fraud could possibly have been perpetrated against the State. The evidence elicited at the trial fails to sustain the plaintiff's charge of fraud. The real estate mentioned by the Supreme Court in the case above referred to, is the same real estate involved in this action."

Oroville, California, May 18th, 1922.

III-K 五月二十一日 在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
外国人ノ土地会社ノ株式取得ニ關スル訴訟ハ

我方敗訴ノ件

第110号

(五月二十一日接収)
一九二〇年土地法中株式会社ニ關スル条項ニ対ヘル訴訟ハ

五月二十一日当地合衆国地方裁判所ニ於テ弁論ヲ開始シタ

111 米国ニ於ケル土地法問題關係 1件 III-K 三四四

DECISION

"This cause having been heard, and evidence been taken in open Court, and the matter submitted to the Court for Final Judgment—

It appearing that the questions involved herein have been fully passed upon by the Supreme Court of the State of California in the case of 'In the matter of the Estate and Guardianship of Tetsubumi Yano, a minor, in 63 Cal. Dec. 515, of recent date, May 1st, 1922. The Tetsubumi Yano child mentioned in the late decision of the Supreme Court just above referred to, is the same Tetsubumi Yano whose Real Estate the Attorney General is in the instant case seeking to escheat to the State of California. According to the decision made in the guardianship case by the Supreme Court, there is no alternative for this Court except to decide this case in favor of

ルカ回11十11日我方ノ敗訴ニ付シタラ不取敢
在米大使在「ロバ・トムヤルス」領事ノ電報セリ

III-K 五月二十一日 在桑港矢田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
伊賀田ノ人身保護令請願ニ加州大審院却下ナ

ル事件ニ付回覆ノ件

第111号

(五四二十一日接収)

貴電第17号ニ認シ

本件ハ密年八月 Sonoma 郡 Petaluma 在住伊賀田ガ弁護士「ロバ・トムヤルス」ノ助言ニ基キ同人ト契約シ其子(米国人)ハ為土地ヲ購入シ米貨百五十ドル第一回分トシテ支払シテハ「ロバ・トムヤル」ノ名義ニ移シタル處同郡ノ「タラハ・タラハ・タラハ」ヘナラ以テ一千九百二十一年土地法第十条ニ規定ベル共謀犯トナシ郡検事ニ対シ告發状ノ発給ヲ要求シ其結果同十一日伊賀田「ロバ・トムヤル」共ニ土地法違犯者トシテ拘禁セラレタリ然ルニ本件弁護士「タラハ・タラハ」
1、刑罰ノ規定無キ法律ノ条項ニ違反ベル共謀ハ法律上ノ犯罪ヲ構成セバ

111 本件ハ米国市民タルラ得ザル外国人ニ土地所有ノ権限

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 三八 三九

ヲ譲渡スルノ結果ヲ生ゼザルヲ以テ前頃土地法ノ共謀犯

ヲ構成セズ

トノ二理由ニ因リ人身法律ノ適用ヲ受ケ当然放免サルベキ

モノナリトノ主張ニ基キ郡裁判所ニ於ケル正式裁判ニ先ダ

チ加州大審院ニ対シ右両名ノ放免ヲ請願セルモノナリ然ル

ニ本年五月十六日州大審院ハ左記ノ理由ニ基キ本件訴願ヲ

却下セリ

一、本件計画ハ土地法第十条ニ規定セル共謀罪ニ該當ス

二、訴願人ハ刑罰ノ規定無キ法律ノ条項ニ違反スル共謀ハ

法律上ノ犯罪ヲ構成セズト主張スルモノ本院ハ之ニ同意セ

ズ

三、本件判決ハ矢野後見事件（往電第九八号参照）判決ト

抵触セズ蓋シ矢野鉄文ハ米国生ノ市民ニシテ財産権享有

上他ノ市民ト何等區別サルベキモノニ非ザルニ反シ本件

訴願人ハ市民タルヲ得ザル外国人ニシテ農業用地ヲ所有

スルヲ得ザルモノナルヲ以テナリ云々

右ノ結果本件ハ再ビ郡裁判所ニ於テ判決ヲ統行スルコトト

ナレリ（判決文郵送ス）

在米大使ヘ電報シ「ロス・アンゼルス」ヘ郵報セリ

第一一二三号

（五月二十六日接受）

往電第一一〇号ニ閲シ

当地合衆国地方裁判所ニ於ケル土地会社株式取得ニ対スル

判決要点左ノ如シ

(一)原告ハ市民タルコトヲ得ザル外国人ナルヲ以テ加州内ニ

於ケル不動産上ノ権利ヲ取得スルヲ得ズ

(二)加州内ニ於テ加州法ニ依リ農業上ノ目的ヲ以テ設立セラレ且現農業用地ヲ所有セル土地会社ノ株式ヲ斯ノ如キ外国人ニ於テ取得スルコトハ加州外國人士地法第二条ニ依リ禁止セラレタル不動産上ノ権利ヲ取得スルコトナルヲ以テ檢事総長ニ於テ同法第七条及第八条ニ依リ之ヲ州ニ没収スルノ手続ヲ採ルモノ之ヲ以テ日本通商條約及合衆国憲法修正第十四条違反ナリトスルヲ得ズ

判決文郵送ス

在米大使ヘ電報シ「ロス・アンゼルス」ヘ郵報セリ

四〇 五月二十六日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

禍原ノ收穫契約方土地法違反トシテ郡裁判所

二起訴セラレタル件

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 四〇 四一

三八 五月二十四日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

加州検事総長大審院ノ矢野勝訴判決ニ対シ再

審請願書提出ノ件

第一一二二号 （五月二十六日接受）

往電第一〇二号ニ閲シ加州検事総長 Webb ハ加州大審院ニ於ケル矢野事件ノ判決ニ不服ナリトテ加州民事訴訟法ニ依リ五月二十日同院ニ対シ本件再審ノ請願書ヲ提出シタルカ其ノ理由ハ合衆国各州ハ建国以来州内ノ土地ニ対シ絶対ノ支配権ヲ有スルヲ以テ原則トナスカ故ニ此ノ精神ニ違反シテ下サレタル同院ノ本件判決ハ再考ノ余地充分ナリト謂フニ在リ

右ニ対シ我方側弁護士「クラフトン」ヨリハ同法ニ依リ両

三日中ニ同院ニ対シ抗弁書提出ノ筈ナリ

在米大使ヘ電報シ「ロス・アンゼルス」ヘ郵報セリ

三九 五月二十五日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

外国人人ノ土地会社株式取得ニ対スル合衆国地
方裁判所判決ノ要点報告ノ件

第一一二五号 （五月二十七日接受）

加州「プラサ」郡在住岡原ハ米人「ヴィネンシオ」所有ノ土地二十英町ヲ開墾スル為一英町五十弗ノ割合ニテ現金支払ノ上尚開墾後之ニ果物野菜ヲ植附ケ其收穫ヲ折半スルノ

契約ヲ為シ之ヲ同郡登記所ニ登録セシ處排日協会会頭「イマン」ハ之ヲ以テ收穫契約ノ方式ニ則ラサル加州外人士地法違反ノ契約トナシ検事総長ニ対シ其旨申告セシ結果五月二十五日同郡検事ヨリ郡裁判所ニ対シ該契約無効ノ起訴ヲ為スニ至レリ之ニ閲シ在米日会員ノ語ル所ニ依レハ本月二日右米人ヨリ書面ヲ以テ前記ノ如キ契約ヲ為シタキ考ナルカ同会ノ之ニ対スル意向如何ナルヤヲ問合來リタルモ同

契約ハ從来同会ニ於テ採用セル收穫契約トハ全然別物ニシテ日本人ニ不利ナルモノナリシヲ以テ其旨回答スルト共ニ邦人ニ対シ之ニ応セサル様警戒シ置キタルモノナルカ尚為念目下同地同会ニ対シ契約ノ内容照会中ナリトノコトナリ在米大使羅府ヘ電報セリ

四一 六月一日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

加州検事総長ノ矢野勝訴判決ニ対スル再審請

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 四一 四三

六〇

顧ヲ大審院却下ノ件

第一一六号 (六月一日接受)

往電第一一二号ニ閑シ

加州検事総長ノ加州大審院ニ対スル矢野事件再審請願ハ五月三十日却下セラレタリ

在米大使ヘ電報シ在「ロス・アンゼルス」領事ヘ郵報セリ

四二 六月六日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

外人土地法違反トシテ拘引セラレタル岡原ガ

加州大審院二人身保護令適用ヲ請願ノ件

第一二〇号 (六月七日接受)

往電第一一五号ニ閑シ

岡原ハ六月一日郡検事補ヨリ外人土地法違反トシテ拘引セラレタルガ同人ハ直ニ加州大審院ニ対シ本件ハ純然タル取扱契約ニシテ土地法違反ニ非ズトノ理由ニ依リ人身保護律適用ノ請願ヲナシ同五日公判開廷ノ筈ナリシ處州検事総長ニ於テ抗弁ノ準備整ハザル為延期ヲ申出デタル趣ナリ右ニ関シ在日本人会員ノ語ル所ニ依レバ本件ハ前記往電後段所報ノ如キ経緯アルノミナラズ被告弁護士ハ右郡検事補ノコトナリ

華府「ロス・アンゼルス」ヘ郵送セリ

四三 六月三十日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

加州外国人土地法違反トシテ告発セラレタル
伊賀田ニ対スルソノマ郡上級裁判所ノ有罪判決報告ノ件

第一二二八号 (七月一日接受)

往電第一一一号ニ閑シ伊賀田事件公判ハ六月二十六日及二十七日両日「ソノマ」郡上級裁判所ニ於テ開カレタルガ元來本件ハ加州外人土地法第十条違反ノ廉ニ依リ告発ヲ受ケタルモノナルニ拘ラズ郡検事補「キアンペル」ハ同法第九条ヲ引用シテ有罪ヲ主張シタルヲ以テ我方弁護士ハ其不当ナル旨ヲ指摘シタルモ法律ノ知識無キ陪審官ハ右第九条ト

第十条トノ区別ヲ混同シタリト見エ終ニ我方ノ有罪判決(ペーディクト)ヲ下シタル結果六月三十日七百五十弗ノ罰金刑ニ処セラレタリ

在米大使及在羅府領事ヘ郵送セリ

四四 七月一日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

矢野後見事件ニ閑連セル矢野勝訴判決ニ対シ
加州検事総長大審院ニ上告ノ件

(七月一日接受)

第一二九号 (七月一日接受)

五月二十三日附公第一八七号拙信ニ閑シ
郡上級裁判所ニ於ケル矢野後見事件ニ閑連セル判決(土地法「エヴェード」ニ閑スル)ニ対シ加州検事総長「ウエック」ハ加州大審院ニ上告セル旨六月二十九日在米日会ヨリ通知アリタリ

四五 七月八日 在桑港矢田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

外国人土地会社株式取得ニ閑スル地方裁判所ノ判決

所ノ判決ニ対シ原告佐藤大審院ニ上告ノ件

第一三一号 (七月九日接受)

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 四四 四五 四六

伊賀田事件控訴理由書送付ニ閑スル件

本件裁判カ「ソノマ」郡上級裁判所ニ於テ我方有罪ノ判決アリタルコトハ本年六月三十日本官発閣下宛電報第一二八号ヲ以テ及報告置候處今回被告側ニ於テ本件ヲ加州控訴院ニ控訴スルニ決シ主任弁護士「クロフトン」ヨリ別紙「ブ

〔十一〕米國ニ於ケル土地法問題関係一件 四七

六一

(註)「リード」ノ如キ理由ヲ以テ同院ニ控訴シタル趣ニ有之候間此段報告申進候 敬具

本信写送付先 在米大使羅府領事

註 ブリーフ省略

〔十一〕月十九日 機密
原告側弁護士宛
第九三号

(十一)月十九日 機密

四七 十一月十八日 在シアトル斎藤領事宛
内田外務大臣宛 (電報)
合衆国大審院ニ於ケル華盛頓州土地法試訴ノ
原告側主張要旨報告ノ件
別電 同日 在シアトル斎藤領事宛内田外務大臣宛電
報第九三号

右要点

(十一)月十九日 接受)

合衆国大審院ニ於テ十一月二十七日審理セラルルトナムナ
リ居ル華盛頓州土地法試訴ノ原告側主張ノ要点 (別電第九
三号) へ通リ尚原告及被告加州検事総長ノ弁論要領書 (郵送
ベシ) 大使 (電報) S

十一月十八日在シトネル斎藤領事宛内田外務大臣宛
電報第九三号

citizen of the United States and hence Nakatsuka
is freed from the obligation of compliance there-
with.

5. The Act is in violation of the Treaty be-
tween the United States and Japan in that it pro-
hibits the leasing of lands for commercial pur-
poses and prohibits Nakatsuka from doing every-
thing necessary for or incident to the trade on
the same terms as citizens.

Saito.

四八 十一月二十一日 在シアトル斎藤領事宛
内田外務大臣宛 (電報)
華盛頓州土地法試訴ノ弁論開始無期延期ノ件
(十一月二十一日 接受)

往電第九三号ニ閲シ華盛頓州土地法試訴ハ当地原告弁護士
ノ情報ニ依レバ十一月二十七日合衆国大審院ニ於テ口頭
弁論開始ノ答ナリシモ無期延期トナレリ右ハト同院判事
欠員ノ為ナリト (K) 在米大使及各領事へ郵報シタリ

〔十一〕米國ニ於ケル土地法問題関係一件 四八 四九

〔十一〕月十五日 機密
原告側弁護士宛
第九四号

(十一)月十五日 機密

四九 十一月五日 在シトネル斎藤領事宛
内田外務大臣宛

華盛頓州大審院判決ニ付報告ノ件

機密公第四九号
(十一)月十五日 機密

大正十一年十一月五日

在シトネル

領事 斎藤 博 (母)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

英領加奈陀人「マー・シヒー・ホーリンネル」対米國市民
「シヒー・マー・ホーリンネル」及「シヒー・ロナード・

」ヘ土地信託譲渡契約ニ閲シ華州「キング」郡検事ハ右
ハ加州憲法及千九百二十一年加州排外土地法ニ背反シ從而
右土地ハ没収セラルベキモノナリトシテ「キング」郡上級
裁判所ニ告発シタルニ対シ被告側ハ之ニ抗告シ同上級裁判
所ハ被告ノ主張ヲ是認シテ抗告ノ有効ナル旨決定ヲ与ベタ
ルガ郡検事ハ右ハ郡上級裁判所ノ決定ニ不服ヲ唱へ州大審
院ニ上告シタリ (大正十一年三月二十一日機密公第一〇号
拙信) 而シテ十月十四日州大審院ハ「キング」郡上級裁判

六一

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 四九

六四

所ノ決定ヲ覆シ郡検事ノ主張ヲ是認シタリ今州大審院ノ判決理由ノ要旨ヲ挙ゲンニ

一、「エクイータブル、コンヴァージョン」(Equitable Conversion)ノ主義ハ成文法規ノ存在ノ場合ニ適用セラルベキモノニ非ズ

二、信託譲渡契約ニ依リテ外国人ガ信託ノ終了ト共ニ右財産売却ノ代金ヲ受領スルコトナル事實ニ鑑ミ右外国人ハ土地ヨリ生ズル利益ニ對シ権利ヲ有スルコトナリ右権利ハ該排外土地法ニ所謂土地 (land) の語ニ明カニ包含セラルモノナリ

三、千八百九十九年英米条約ハ両国民ノ「ペーナル、プロペティー」ニ關シテノミ均等保護ヲ約シ居レルモ該排外土地法ハ土地ヨリ生ズル利益 (interests or benefits in land) ノ「リアル、プロペティー」(real property) ルシテ定義シ居リ右定義ハ斯ル利益ガ土地其物トノ密接ナル關係上正当ナリ從而英米条約ニ抵触スルコト無シト

右州大審院判決ニ對シ被告側ハ之ヲ合衆國大審院ニ上告スベク目下手続中ナリ
今被告側弁護士「ローナガン」氏ガ州大審院判決ヲ不當ト

註 添附ノ判決文写ヲ省略ス

此段申進候也

五〇 十二月十四日 内田外務大臣ヨリ
在シアトル斎藤領事宛

華盛頓州土地法実施以来ノ本邦人ノ該法違反

トシテ起訴セラレタル事件ニ付査報方訓令ノ

件

通移機密第一三号

華盛頓州排外土地法実施以来同法違反トシテ検事ヨリ起訴セル訴訟事件ニ関シ客年八月機密公第三〇号葛川彰三土地没収事件及本年三月機密公第一〇号加奈陀人「オコネル」

土地信託譲渡事件等御報告ノ次第有之候處新聞記事及日本人民会務報告ニ依レハ且下係争中ノ本邦人土地法違反事件ハ葛川、喰田、大久保、平林及楠見ノ五件アリテ何レモ未タ第一審ヲ経サル由ナルモ遠カラス裁判進行スヘシト察セラルニ付此際前記諸件ハ勿論土地法実施以来本邦人ニシテ同法違反トシテ起訴セラレタル訴訟事件アラハ各事件ニ付

一応御調査ノ上從来ノ御報告ト重複スルト否トニ拘ハラス事件ノ成行及論争点等ノ要領取纏メ可成速ニ御回報相成度此段申進候也

追テ第一審ノ判決アリタルモノニ付テモ其後ノ成行御取調御回報相成度為念申添候

スル理由ハ

一、「エクイータブル、コンヴァージョン」ノ主義ガ成文法規ノ存在スル場合ニハ適用セラレズトノ第一理由ハ論拠薄弱ナリ右ハ今尚確定的ノ判決例ナク英米法曹会ニ於テ最モ議論アリ未解決ノ問題ナリ

二、土地ヨリ生ズル利益ヲ以テ直ニ土地ト称スルハ從来ノ一般慣例及法律用語トシテ妥当ナラズ

三、當該土地法ガ英米条約ニ抵触スルヤ否ヤハ一一掛ツテ「ペーナル、プロペティー」ノ意義ノ決定ニ之由ルモノニシテ土地ヨリ生ズル利益ヲ直ニ土地ト同一視シテ「リアル、プロペティー」ナリト称シ得ベキヤ疑ノ余地アリ

四、州大審院ノ判決ニ於テハ被告側ノ主張セル合衆國憲法改正第十四条ノ所謂「均等保護」(equal protection)及「法律ノ適當ナル手続」(due process of law) 条項ニ就キ闘争セザルモ此点ハ被告側ノ主張スル主要ナル論点ナリト

尚州大審院判決詳細ハ別添判決文写ニ依リ御詳悉相成度此段報告申進候 敬具

本信写送附先 在米大使沿岸各領事總領事

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 五一

六六

一、隅田土地法違反訴訟事件

二、高柳峰吉土地法違反訴訟事件

三、矢野速雄土地法違反訴訟事件（後見人事件ニ関連シテ）

検事ヨリ起訴セル土地没収訴訟事件

四、新宮重助土地法違反訴訟事件

五、岡原土地法違反訴訟事件

六、伊賀田定平土地法違反訴訟事件

（以上）

（附記）

加州土地法ニ対スル試訴ノ成行（外務省通商局移民課調）

（大正十一年十一月稿）

加州土地法ニ対スル試訴ノ成行

（大正十一年十一月稿）

一、試訴提起以前ノ形勢

大正二年ノ加州土地法ハ日本人ニ対シ土地所有ヲ禁止セルモ三箇年ヲ期間トスル借地ヲ許セルニ依リ在留本邦人ハ借地契約又ハ歩合耕作契約ノ方法ニ依リテ農業經營ヲ継続シ同法ノ存在ニ係ラス爾來益々發展シツツアリシカ大正九年十一月人民直接立法ノ方法ニ依リ制定セラレタル所謂「イニシエチブ」排日土地法ハ旧土地法ニ一步ヲ進メ帰化権ナキ外国人ニ対シテハ單ニ（一）土地所有權ノミナラス（二）借地權

ヲモ絶対ニ禁止シ加フルニ（三）会社組織ニ依ル土地所有及借地ヲ禁シ更ニ（四）米国出生兒童ノ土地所有及借地ニ關シ其後見人タルコトヲ禁止セルカ故ニ同法ハ実ニ加州在留本邦人ノ致命的大打撃ニシテ同法ニシテ全然無効ニ帰スルカ又ハ幾分ノ緩和ヲ見サル限り日本人ハ加州ニ於テ全ク農業經營ノ途ヲ失スヘキ形勢ニ立至レリ

斯ノ如キ形勢ニ處シテ加州在留本邦人ノ執ルヘキ善後策トシテハ

（一）該土地法ニ対シ試訴ヲ提起スルコト

（二）帰化権ニ関スル訴訟ノ結果ヲ俟ツコト

（三）既設土地会社又ハ米国出生成年日本人ノ借地ヲ利用スルコト

等ノ方法モアルモ帰化権訴訟ノ勝敗ハ當時ニ於テ逆睹スルヲ得サリシノミナラス徒ニ時日ヲ空費スル虞アリ会社又ハ他人ノ借地ヲ利用スル方法ハ一見可能ナルカ如キモ相互ノ間ニ特別ノ關係ナキ者ニ在リテハ成立シ難ク其範囲狹少ニ過クルノ嫌アリ茲ニ於テカ合衆国大審院ノ判決ニ依リ該土地法ヲ無効ニ帰セシムル目的ヲ以テ同法ニ対シ試訴ヲ提起スルノ外他ニ妙策ナキニ至レリ

二、試訴提起當時ノ事情

試訴ノ目的ハ土地法ヲ根本ヨリ覆スニ在ルヲ以テ之ヲ遂行スルニ付十分ノ準備ヲ要スルコト明ナリシモ大正九年十一月同法実施後農業經營ニ從事セル本邦人ハ當面ノ應急策トシテ從前行ハレタル歩合耕作ニ多少ノ改竄ヲ加ヘ収穫契約ト称スル一種ノ雇傭契約ノ形式ヲ案出しシ之ニ依リ土地法ニ違反スルコトナクシテ差当リ農業ヲ継続セント欲シ米人地主モ亦右方法ニ依ラントスル者多カリシカ検事総長「ウェップ」ハ土地法勵行ヲ標榜シ収穫契約ナルモノハ實際ニ於テ土地ノ完全ナル利用ヲ為サシムル契約ニシテ實質上何等借地契約ト選フ所ナク土地法ノ精神ニ違反ストナシ各地方ノ檢事ニ対シ斯ノ如キ形式ニ依ル耕作契約ヲ調査検挙スヘキ旨命令セリ而シテ該命令ノ公表セラルルヤ米人地主ハ危惧ノ念ヲ抱キ安ンシテ収穫契約ヲ締結セサルニ至レルカ本邦人農業者ハ曩ニ旧土地法ノ下ニ締結セル契約ノ期限到来スルト共ニ契約更新ノ必要ニ迫ラレ大正十年秋季ニ入ルニ先タチ既ニ非常ノ窮地ニ陥リタリ茲ニ於テ同年九月二日桑港ニ於テ加州北部邦人農業代表者多数集合協議ノ上桑港在米日本人会ヲ動カシ應急策トシテ収穫契約ニ關シ先ツ検事委員会代表者及南加中央日本人会土地法試訴実行委員会

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 五

六八

代表者ヨリ成レル加州南北聯合協議会ヲ「ロスアンゼルス」ニ開キ土地法試訴全般ニ亘ル協議ヲ為シ経費調達方法、弁護士選定並左記諸項ヲ決定セリ

一、株式会社ニ閲スル試訴ハ可成早ク起スコト

一、土地所有権ニ閲スル試訴ノ時機ニ付テハ一時留保スルコト

一、後見人ニ閲スル試訴ハ加州大審院ニ於ケル矢野事件ノ決定ヲ待ツコト

一、収穫契約及借地契約上告ノ件

一、「ワシントン」州土地法関係委員会ト聯絡ヲ取ルコト

右協議ニ基キ株式会社ニ閲スル試訴ヲ同年二月桑港ニ於テ提起シ五月敗訴ノ判決アリ七月合衆國大審院ニ上告セリ

三、合衆國大審院ニ繫属中ノ試訴事件ノ種別

加州土地法ニ対スル試訴ハ前敍ノ如ク当初同法ニ対シ部分的ニ訴訟ヲ提起セル為裁判事件トシテハ(一)収穫契約訴訟事件(二)借地権訴訟事件(三)株式会社訴訟事件ノ三件ニ分レ各別箇ノ事件トシテ何レモ目下合衆國大審院ニ繫属中ナリ各事件ノ概要左ノ如シ

ケタルニ依リ原告ヨリ直ニ合衆國大審院ニ上告シ且下同院ニ繫属中ナリ

(一)株式会社訴訟事件

原告 加州「マーセッド」郡日本人佐藤及米人「フリック」

被告 加州検事総長「ウエップ」及地方検事「ウルウデー」

大正十一年二月二十七日在桑港合衆國地方裁判所ニ訴訟ヲ提起シ同年五月二十二日口頭弁論二十三日原告敗訴ノ判決アリ七月七日原告ヨリ合衆國大審院ニ上告シ目下同院ニ繫属中ナリ

四、試訴事件ニ対スル地方裁判所ノ判決要旨

(甲)収穫契約訴訟事件

本件ハ「インジャングクション」ノ形式ニ依リ訴訟ヲ為シタルモノニシテ検事カ収穫契約ヲ土地法違反ト認メ契約当事者ヲ検挙スルコトニ対シ裁判所ノ禁止命令ヲ得ントスルニ在リ原告ハ土地法ハ日米条約、合衆國憲法及法典ニ違反スル所アリト主張シ尚仮リニ土地法ヲ適法ノモノナリトスルモ收穫契約ハ土地法ノ下ニ於テモ適法ノ契約ナリト論シ之

モ收穫契約ハ土地法ノ下ニ於テモ適法ノ契約ナリト論シ之

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 五一

(一) 収穫契約訴訟事件

原告 加州「サンタクララ」日本人井上及米人地主

「オブライエン」

被告 加州検事総長「ウエップ」及地方検事「クーリッジ」

大正十年十月十三日在桑港合衆國地方裁判所ニ訴訟ヲ提起シ十一月十八日口頭弁論十二月二十日原告勝訴ノ判決アリ大正十一年一月二十日被告検事総長「ウエップ」ヨリ合衆國大審院ニ上告シ目下同院ニ繫属中ナリ

(二) 借地権訴訟事件

原告 加州「ロングビーチ」日本人水野及米人地主

「ボーターフィールド」

被告 加州検事総長「ウエップ」及地方検事「ウルウワイン」

大正十年十月十八日在「ロスアンゼルス」合衆國地方裁判所ニ訴訟ヲ提起シタルカ検事総長ノ希望ト原告弁護士ノ同意ニ依リ事件ヲ在桑港合衆國地方裁判所ニ移サレ十一月十八日収穫契約訴訟事件ト同一法廷ニ於テ同時ニ口頭弁論アリ十一月十九日原告敗訴ノ判決ヲ受

ニ対スル判決理由ハ土地法ハ適法ノモノニシテ条約、憲法及法典ニ抵触スルモノニアラサルモ収穫契約ハ当事者ノ一方カ労務ニ対スル報酬トシテ収穫物ノ一部ヲ受クル契約即雇傭契約ニ過キシテ土地法ノ規定ニ違反スルモノニアラサルカ故ニ土地法上有効ノ契約ナリトセリ

(三) 借地契約訴訟事件

収穫契約事件ト同シク「インジャングクション」ノ形式ニテ訴訟ヲ提起シ主トシテ合衆國憲法、法典及日米条約違反ヲ主張セルカ之ニ対スル判決理由ハ土地法ハ憲法、条約及合衆國法典ニ抵触スル所ナク適法ノ法律ナリトセリ

(四) 株式会社訴訟事件

本件モ亦「インジャングクション」ノ形式ニ依リ合衆國憲法及法典並日米条約違反ヲ主ナル論点トセルカ之ニ対スル判決理由ハ土地法ハ憲法、法典、条約ニ違反セス適法ノモノナリトシ本件土地会社ノ株式取得ハ土地法ニ規定セル不動産上ノ権利取得ニ該当シ同法ハ帰化権ナキ外国人ニ対シ之ヲ禁止セルモノナリト断定セリ

五一 十二月二十一日

内田外務大臣ヨリ
在ロス・アンゼルス大山領事宛

六九

三 米国ニ於ケル土地法問題関係一件 五三

七〇

日本人ノ加州土地法違反訴訟事件ニ付調査報

告方訓令ノ件

通移機密第一四号

加州排外土地法制定以来千九百十三年旧土地法又ハ千九百二十年新土地法ノ違反トシテ検事ヨリ起訴セル対本邦人土地法違反訴訟事件ニ関シテハ隨時御報告ノ次第有之候處各事件ニ付今日迄ノ経過至急調査ノ必要有之候ニ付土地法実施以来貴館管轄本邦人ノ違反事件ニ付一応御調査ノ上既ニ御報告済ノ分ニ付テハ其後ノ成行ノ未報告ノ分ニ付テハ各事件ノ経過及論争点等ノ要領取纏メ可成速ニ御回報相成度此段申進候也

五三 十二月二十一日 在桑港矢田縫領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

合衆国大審院ニ提起中ノ土地法中借地権訴訟

ニ関シ在米日会顧問エリオットノ意見ヲ在シ

アトル領事ヘ転達ノ件

第二三八号 (十二月二十二日接受)

本官発「シアトル」宛電報第六三号

在米日会顧問「エリオット」ヨリ同会ニ対シ目下合衆国大

審院ニ提起中ナル土地法中借地権試訴ニ関シ左ノ如キ意見ヲ提出シ來レルニ付貴官へ伝達ノ上可然御考量ヲ仰ギ度キ旨同会書記長ヨリ願出アリタリ尚右提議ニ関スル協定ハ明年一月大審院休暇終了前纏ル様切望スル趣ナリ

(一)明年一月ヨリ加州議会開会サルル處若シ其ノ会期中ニ於テ本件開廷セラレ我ガ方勝訴ノ判決アルトキハ(帰化権訴訟ノ際ノ例ニ拠レバ「ヒヤリング」後約一ヶ月ニシテ判決アリタリ又若シ判決ナクトモ我ガ方弁護ノ弁論發表サルルニ於テハ)同議会ニ於テ直ニ我ガ方ニ不利ナル土

地法ノ改正ヲ試ムル虞アルニ付若シ出来得ルコトナラバ右開廷ヲ会期終了迄延期スルコト可然ト思ハル
(二)華盛頓州土地法ハ法文上日本人ニ対シ差別的待遇ヲナスノ点加州法程明瞭ナラズ從テ同法ヲ以テ合衆国憲法違反ナリト主張セントスルニ於テハ先づ加州土地法ニ対スル試訴ヲ先ニシ然ル後同法ノ試訴ニ及ブヲ以テ策ノ得タルモノナリト信ズ故ニ若シ出来得ルコトナルニ於テハ加州土地法試訴ヲ先ニシタシ

外務大臣及在米大使ヘ電報セリ

事項四 米国ニ於ケル排日関係雑件

一 写真結婚婦人問題

二 加州外国语学校取締法問題

三 ターラック事件関係

四 加州地方選挙ト排日関係

基キタルモノニテ直ニ実行スペシトノコトナリ依テ即時実行ハ妥当ナラザル旨申入レタルニ結局移民局長ハ実行期ニ付テハ労働務省ニ問合スペシト語レリ

在米大使ヘ転電セリ

五四 五月十日 在ホノルル山崎縫領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人二対スル読書試験施行決定ノ件

(五月十一日接受)

五五 五月十三日 内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利臨時代理大使宛(電報)

写真結婚二対スル米國側解釈ノ変更事情查報

方ノ件

第二四四号

此程米國労働務省ガ写真結婚ハ移民法適用上有効ト認メズトノ決定ヲナシタル趣ニテ今後写真結婚ニ依リ入国スル婦人ニ対シ当地上陸ノ際移民法ニ規定スル読書試験ヲ行ナハザリシガ本件取扱ノ変更ハ四月二十二日附労働務省ノ通牒ニ

四 米國ニ於ケル排日関係雑件 五四 五五